

親子で見直そう！メディアとの付き合い方

～家庭で実践！デジタルシティズンシップ 導入編～

もうすぐ進級・進学などで子どもたちの環境が大きく変わる季節です。そんな環境の変わり目にこそ、メディアとの付き合い方を見直しましょう。

一般的な「〇年生だから平日〇時間まで」「△年生は土日の利用は△時間まで」といったルールを、そのまま子どもに当てはめるだけでは、十分ではありません。子どもとの対話の中で、その子に合ったオリジナルのルールを作ってください。



今回から、「家庭で学ぶデジタルシティズンシップ」について紹介していきます。

「デジタルシティズンシップ」とは？

“デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力のこと”

欧州評議会(2020)Digital Citizenship Education Trainers' Pack

どうして今「デジタルシティズンシップ教育」なのか…

今の子どもたちは、デジタル機器を家庭でも学校でも使いこなす時代を生きています。家庭で、子どもがタブレットを触っているときに遊んでいるのかと思って声をかけたら「宿題してるだけだよ！」と言われたことはないでしょうか。

子どもがデジタル機器を使ううえで大切なのは、時間を制限し、大人が管理することではなく、子ども自身が「この時間に使うのはやめよう」「こんなことネットに載せたら大変なことになる」と自分で考えて、上手にデジタル社会で生きていくスキルを身に付けることです。

このデジタルシティズンシップ教育は、親子でデジタル機器の付き合い方を、成長段階に応じて話し合うことで身に付けていきます。親は、子どものデジタル機器との付き合い方がよくない時に、ただ怒るのではなく、話し合って改善の仕方を一緒に考えていきましょう。そうすれば、子どもがネットトラブル（SNSの誹謗中傷、課金問題、出会い系トラブル）に巻き込まれたときに、家族に言い出せずに一人で悩むことなく、すぐに相談してくれます。これからのネット社会を生きていく家族において一番大切なことです。



今回は、デジタルシティズンシップ導入編として『対話の基本』についてご紹介します。

対話の基本 1 子どもの発達段階に応じた声かけをする



小学校低学年

小学校中・高学年

中学・高校生

子どもの発達段階に応じて、決まり事は変わっていきます。最終的には、大人の管理なくメディアと上手に付き合えるようになることが目標となるため、段階に応じて徐々に自分で考えられるように、問いかけを多めに心がけていきます。子ども自身が、自己管理や状況判断がどこまでできるかを考えながら、内容を変えていきましょう。小学校低学年には、親が細かく管理する声かけ、中学、高校生には一緒に考えていくような声かけをするといいでしょう。

対話の基本 2 3ステップを意識し継続的に対話する



子どもとの対話は「計画」→「実行」→「振り返り」のサイクルを意識します。

1. 子どもが普段デジタル世界でどのような行動をし、どのような経験をしているかを聞く
2. デジタル世界での経験をどのようにすれば、よりよくできるかについて一緒に計画をたてる
(例)「動画は一日に15分までにしよう」「友だちの気持ちを考えてチャットしよう」
生活をしっかり見直して実践可能な計画にするのがポイント
3. まずは1週間、計画を実行する
4. 定めた期間を終了したら、振り返り、同じ計画を継続して実行するのがよいか、新たな計画へと修正するかどうか話し合う
この3ステップのサイクルを繰り返し、継続しながらよりよいメディアとの付き合い方を目指します。

<出典>

※総務省「家庭で学ぶデジタルシティズンシップ」

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/parent-teacher/digital_citizenship/practice/

本メールに関して御質問、お問い合わせがある場合は下記まで御連絡ください。

【担当】福井県防災安全部県民安全課

☎:0776-20-0745 (直通) メール: kenan@pref.fukui.lg.jp

★子どもの安全安心に関する情報などをX (旧 Twitter) で発信しています→

